

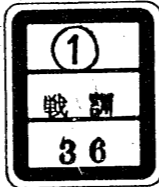
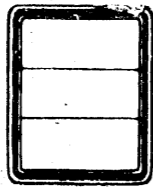
電子複写不可

原本史料

# 沖繩航空戦々訓速報

其の三

防衛研  
修  
戦  
史  
室



沖繩方面航空戰之訓速報 其ノ三

目次

第八	通信關係	一頁
第九	整備關係	一四頁
第十	兵器關係	三二頁
第十一	敵ノ特性、戰法	四二頁
附錄	經過概要	四七頁

(備考)

第一	其ノ一	一頁
第二	偵察關係	一頁
第三	寫真關係	一頁

20. 7. 30

其ノ一

第四	空戰關係
第五	管擊關係
第六	爆擊關係
第七	電測關係

(目次終)

第八 通信關係

一、通信計畫

(1) 圓滑ナル作戰通信實施ノ爲ニハ電波ノ選定適切ナルヲ要ス、電波選  
 定上注意スベキ事項左ノ如シ  
 (一) 特殊任務ノ飛行機隊及練成不足ノ飛行機隊ニ對シテハ甲種電波ヲ  
 使用セシムルヲ專ナク乙種又ハ丙種電波ヲ使用セシムルヲ有利トス  
 三月十八日乃至二十一日頃機動部隊攻勢ニ於テ七〇一部隊彗星特  
 攻隊ハ丙種電波ヲ使用シ、偵察機等ヨリスル所要情報ハ基地中繼  
 トシ圓滑ナル通信ヲ實施セリ、多數機ヲ一律ニ甲種電波ニテ賄フ  
 ハ理想トスル處ナルモ一般ニ練成低下セル項ニ於テハ混亂ヲ來  
 ス虞ハナルヲ以テ、全隊ニ比較的輕少キ特殊任務飛行機隊又ハ  
 練成特ニ低キ飛行機隊ニ對シテハ乙種又ハ丙種電波ヲ配シ、之等  
 飛行機隊ノ通信ヲ確保スルト共ニ甲種通信ノ混亂ヲ避クルヲ有利  
 トス、但シ此ノ場合ハ基地ニ於テ要務處理ヲ適切ニシ飛行機隊ニ  
 對スル情報命令ノ通報ニ遺憾ナキヲ要ス、  
 (二) 電波ハ各波長ニ於テ季節、晝夜、時刻、練成等ニ依リ夫々傳播狀  
 況ヲ異ニスルハ周知ノ事トシ、晝夜、時刻、練成等ニ依リ夫々傳播狀

ニ短波ヲ用ヒ或ハ遠距離無線電信電波ニ四〇〇〇Kcヲ使用スル等傳  
播ヲ無慮シタル電波ヲ使用セシムル部隊アリ、而シテ之ガ決定ニ當リ  
テハ

實用通信周波數便覽（短波用）  
航空機通信周波數選定圖表  
（航本發行）  
（二技廠發行）

等ノ資料ヲ必ズ參照スベキナリ、  
尙晝夜間波ノ轉換時刻モ然日出沒時ニ一致セシムルコトナク、  
圖表ヨリ最モ適當ナル時刻ヲ求メ更ニ其ノ許容時間ヲモ檢討シテ  
ルヲ要ス、

（三）傳播狀況良好ナル電波ト雖モ混信アルモノハ通信ニ不適ナルコト  
言フ迄モナシ、尋前ノ調査是非必要ナリ、又自己妨害ノ有無ニ關  
シテモ同様ナリトス、一方ニ於テ現在特性良好ナル電波帶ニ於テ  
ハ混信無キ電波ハ皆無ト言ヒ得ベク、尙益混信増大ノ傾向ニア  
ルガ實狀ナリ、  
故ニ中央ニ於テハ少クトモ主戰部隊ノ主要電波ニ對シテハ海、陸  
運各省ノ協定ニ依リ味方ノ混信ヲ皆無ナラシムルト共ニ敵並ニ第  
三國電波使用狀況ヲ觀測シ最良ナル電波ヲ決定スル要アリ、

五 航艦現用甲種短（中）波ニハ相當ノ混信アリ又彗星隊丙種電波

（一）三月十九日海外放送電波ノ混入ノ爲一時通信不能トナレリ、  
（二）呼出符號ノ使用區分ヲ誤ラザルヲ要ス、

（三）呼出符號ノ錯誤ハ作戰指導部ヲシテ重大ナル誤判斷ヲ爲サシム、飛  
行機隊出發ニ當リテハ特ニ念ヲ入ルル要アリ、

（四）又「ヨビ丙」ノ如ク毎日變更スルハ搭乗員ヲシテ記憶ヲ殆ド不可能  
ナラシメ譬ヘ符號表ヲ持參スルモ通信圓滑ヲ期シ得ザルハ當然ナル

ヲ以テ「ヨビ丁」又ハ戰團呼出符號ヲ使用セシムルヲ可トス（各隊  
現在殆ド「ヨビ丙」ヲ使用シツツアリ）

（五）呼出符號及略語ヲ各隊ニテ編定スルハ不可ナリ、  
各隊ニ於テ艦隊司令部ノ了解ヲ得ルコトナク濫リニ略語及呼出符號

ヲ制定シ之ヲ作戰ニ使用シツツアル向アルモ各部ニ支障並ニ錯誤ヲ  
來ス虞アルノミナラズ通信指揮ヨリ見ルモ甚ダ不具合ナルヲ以テ速

ニ取止メ艦隊司令部ニ於テ統一スル要アリ、  
現在特攻隊用略語ヲ艦隊ニテ統一スルコトナク各隊ニテ別個ニ作製

セル結果相互ニ抵觸スルモノアルノミナラズ既定ノ他ノ略語ヲ考慮  
セザル爲不具合ヲ生ジツツアリ、

(二) 申種電波ヲ以テ統制基地以外ノ基地ヨリ直接飛行機ニ打込ムコトハ  
 狀況ニ依リ許可スルヲ可トスルコトアリ、  
 甲種電波ハ原則トシテハ統制基地以外ノ電波輻射ヲ禁ジ以テ混亂ヲ  
 防止スルヲ要スルモ緊急時ニ已ムヲ得ザル場合、或ハ少數偵察機ノ  
 ミガ飛行中ニシテ實質的ニハ混亂惹起ノ事ナク且作戰上所屬基地ヨ  
 リノ直接打込ミヲ有利トスル場合等ニハ他基地ヨリノ打込ミヲ許可  
 スルヲ可ト認ム、但シ此ノ際基地ハ飛行機ノ了解ヲ強要シテ電波ノ  
 輻射回數ヲ増スコトナク一向送信セバ爾後ハ統制基地ノ中繼ニ委ヌ  
 ベキモノトス、

二、通信實施

(イ) 電信室内ノ整備整頓ヲ良好ニシ各員ノ配置ヲ適切ナラシムルヲ要ス  
 航空作戰ニ於テハ電信室ハ通信ノミナラズ作戰ノ中樞トモ稱シ得ベ  
 ク一般通信ニ於ケル電信室トハ趣ヲ異ニス、單ナル飛行機ノ交信對  
 手タルノミニテハ航空作戰遂行上甚ダ不充分ニシテ飛行機隊ノ指揮  
 統制ヲ行フ重要ナル部門ナルコトヲ地上通信關係員ハ明確ニ認識ス  
 ルコト必要ナリ、從ツテ電信室内ノ諸施設、配置等ハ總テ之ニ適合  
 スル如ク整備セラレザルベカラズ、

即チ

- (一) 對機交信員ハ電信部指揮官ノ指揮最モ容易ニシテ且他ヨリノ妨害  
 ヲ受クル虞少キ位置ニ占位セシム
  - (二) 暗號員ノ配置ニ關シテハ急ヲ要スル電報ハ受信完了ヲ待タズ受ク  
 ルニ從ヒ翻譯シ得ル如キ考慮ヲ要ス、
  - (三) 關係呼出符號ヲ大表トシテ室内見易キ位置ニ展示ス、
  - (四) 飛行機隊編制表及行動豫定ヲ黑板ニ記註シ見易キ位置ニ掲グ
  - (五) 飛行機隊ノ豫定航路ヲ記入セル航空圖ヲ準備ス(諸要具ヲ附ス)
  - (六) 飛行機發着一覽ヲ作製シ飛行士等ト連絡シ現ニ飛行中ノ飛行機ヲ  
 明確ナラシム
  - (七) 夜間ノ場合ヲ考慮シ燈火管制及燈火ノ配列ヲ適當ナラシム
  - (八) 飛行機出發前等ニ機上電信機ノ地上調整ヲナスコトヲ絕對ニ禁ズル  
 要アリ、
- 本件ハ番ニ敵ニ飛行隊ノ出發ヲ察知セラルルノミナラズ、地上受信  
 ラ妨害スルコト著シク之ガ爲索敵機等ヨリノ重要電報ヲ受信不能ナ  
 ラシメタル例屢アリテ從來ヨリ禁止方ヲ強調セラレアルモ今猶其ノ  
 跡ヲ絶タズ、嚴重ニ取締ル要アリ、電信機ノ狀態判別ニハ斯ル調整

ヲ行フ要ナク平常ヨリ調定例表ヲ作製シオキ搭乘ニ際シテハ通信  
要表所載ノ如ク實施セバ充分ナリ

(イ) 空間觀測ノ勵行不充分ナリ、  
混信防止ノ要談ハ空間觀測ニアリ、最近技術低下ニ伴ヒ空間觀測ノ  
不良ハ自己送信ノ強行ト相俟テ極度ニ混信ヲ惹起センメツツアリ  
空間觀測勵行ニ關シ徹底セル教育ヲ必要ト認ム、

(ニ) 交信規程ハ嚴守スル要アリ、  
新交信規程施行セラレテヨリ既ニ半年ヲ經過セルモ未ダニ之ヲ正シ  
ク實施シアラザル部隊多シ、地上通信幹部並ニ對機交信員ハ之ニ通  
達シ以テ搭乘員教育ニ遺憾ナキヲ要ス

(ホ) 連絡通信極メテ多シ  
技術著シク低下セル今日或極度ノ連絡通信ハ已ムヲ得ザルモ連絡並  
ニ感度ノ間合セノ爲ニ殆ト空間ノ空コトナキ部隊相當ニアリ、地上  
訓練ニ依リ之ハ相當ニ減少シ得ルモノト認ム、

三、方位測定  
(イ) 基地ノ歸投用長波輻射ニ關シ更ニ利用價值増大ノ手段ヲ講ズル要アリ

命令ヲ以テ全國主要各基地ノ歸投用長波周波數並ニ呼出符號制定  
セラレアリ、本規定ハ飛行機ガ自己所屬基地以外ニ歸投セントスル  
場合利用シ得ル如ク定メラタルモノナルモ、現状ハ該基地所屬飛  
行機ガ飛行中ノ場合ノミ輻射スルニ過ギザルヲ以テ他基地ニ歸投セ  
ントスル場合利用スル能ハズ、故ニ所要ノ基地ハ所要期間中常時  
(兵器ノ狀況ニ依リテハ毎時ノ何分ヨリ何分迄ト定ム)輻射スル如  
クシ總テノ飛行機ガ之ヲ航法上ニ利用シ得ル如クナス要アリ、  
敵ノ逆用ニ關シテハ既ニ「レーダー」裝置、双曲線航法裝置等ヲ用  
ヒテ悪天候ニモ確實ニ來襲シツツアル現状ニ鑑ミ考慮ノ要ナキモノ  
ト認ム、

(ロ) 歸投訓練ニ對シ幹部ハ熱意ヲ以テ勵行セシムル如ク指導ノ要アリ、  
歸投裝置ハ常時使用シ之ガ用法ニ慣熟シ又誤差ヲ檢討シ置キテ始メ  
テ實用ニ供シ得ルモノナリ、平常視界良好或ハ航法確實等ノ故ヲ以  
テ之ヲ放置シ訓練ヲ行ハズ、イザト言フ場合ニ之ヲ使用セントスル  
モ兵器ヲ信賴シ得ズ或ハ用法ヲ誤リ完全ニ防止シ得ベキ重大事故ヲ  
惹起シタル例枚擧ニ違アラズ、  
凡ソ飛行作業ヲ實施スル場合歸投時ハ必ズ本裝置ヲ作動セシメ之ニ

四 暗號及略語

習熟セシムルコト肝要ナリ、現狀ハ訓練ヲ勵行シテ本部隊ハ一割ニモ滿タズ専ラ「バラスト」トナリアル狀況ナリ、之ヲ幹部ノ熱意不足ニ基クモノト認ム、

(イ) 實施部隊多數ノ搭乗員ニ就キ調査シタル結果暗號書並ニ略語ノ正シキ使用法ヲ承知セル者ハ全員ノ一割ニモ滿タザル狀況ナリ、各隊幹部ハ之ガ教育ヲ至急實施スル要アルモノト認ム、  
即チ

(一) 偵察員全部及機長ニ對シ教育ス、

暗號ノ作製翻譯ハナシ得ル限り機長若クハ偵察員之ニ當ルベキナリ、電信員ニ全面的ニ任セテハ發信時ヲ増大スルノミナラズ又機長ガ暗號書ノ内容ヲ考慮セス勝手ニ自己ノ腔中ニ浮ビ出タル儘ヲ信文トシテ發信セシメタル爲著シク長文電報トナラシメタル例多シ  
之ガ爲各員ニ對シ機會アル毎ニ暗號書並ニ信文ノ通讀ヲ勵行セシムルヲ可トス、

(二) 使用規程ヲ熟讀セシム

搭乗員中使用規程ヲ見タルコト無キ者大部分ナリ、多暗號書使用規程ハ一般暗號書使用規程ト異リ機上職務ノ教科書ナルヲ以テ各搭乗員ヲシテ回覽熟讀セシムベキモノナリ、

(三) 略語ノ暗記

略語ノ生命ハ其ノ迅速性ニアリ、略語表ヲ見テ作製翻譯スルハ暗號ト平文トノ缺點ノミヲ察メタルニ等シ、略語ハ完全ニ暗記シテ始メテ其ノ眞價ヲ發揮スルモノナリ、然ルニ搭乗員中所要ノ略語ヲ暗記シアル者殆ドナキヲ以テ屢檢定ヲ行フ等ノ手段ニ依リ暗記ヲ受信訓練ト嚙ミ合セテ略語ノ暗記教育ヲ行フ要アリ、  
索敵機等ガ「ヒ」連送ノ外通信シ得ズシテ消息不明トナルハ種々ナル原因アルベキモ其ノ大部ハ發信ノ餘裕ナキニ非ズシテ略語ヲ突嗟ニ使用シ得ザルニ依ルモノト認メラル、

(四) 平文ノ使用ニ關シ觀念ヲ明確ニ把握スル要アリ、  
緊急ノ通信ハ平文ヲ可トスト説クモノ特ニ幹部ニ多シ、之ハ全ク暗號書ノ構成並ニ略語ヲ知ラザルモノニシテ複雑ナル成文通信ヲ確實ニ行ハシムル暗號書ニ如クモノハナシ、平文ハ長文トナリ錯誤ヲ生ズル機會モ大ニシテ却テ發信時ヲ大ナラシム

五 電信員ノ機上業務教育ハ更ニ徹底スル要大ナリ

搭乗電信員ニシテ單ニ搭乗シテ電信機ヲ扱ヒ地上ト交信スルノミニシテ機長輔佐ニ關シ不充分ナル者最近多シ、或ハ半解電報ヲ報告セザル者或ハ勝手ニ事務信ヲ發信スル者等放棄ヲ遺アラズ、電信員ニ對シテハ自己ノ所掌ニ關スルコトハ細天下ナク機長ニ報告シテノ任務遂行ヲ積極的ニ輔佐スル應ラツケシムルヲ要ス、

六 教育訓練

(イ) 燃料其ノ他ニ依リ訓練飛行ノ回數ハ極度ニ制限セラルル現狀ニ於テハ假令短時間ノ飛行作業ト雖モ貴重ナル訓練時間ナルヲ以テ全幅利用シ心懸アルヲ要ス、通信ハ總テノ飛行作業ニ於テ並行的ニ訓練可能ナルヲ以テ事前ニ計畫ヲ樹立シ置キ最大効率ヲ發揮セシムベキナリ、業務飛行等ハ最も利用スベキ機會ニシテ單ナル連絡通信ニ終始スルコトナク地上艦所ヲ増加スル等ノ方法ニヨリ極力技術向上ニ努

ムベキナリ、

而シテ訓練ハ飛行作業ヲ行ハザレバ不可能ナリトスルハ誤リニシテ適當ナル計畫ト指導ヲ以テセバ九〇%以上地上訓練ニ依存可能ナルヲ以テ單ニ送受信技術訓練ニ留ラズ各種ノ項目ヲ組合セテ地上教育ヲ充實スベキナリ、

(ロ) 通信訓練ヲ行フ場合ニハ必ず鑑査ヲ行フ要アリ、漫然ト交信ヲ行フノミニテハ効果ハ半減ス

尙優秀ナル鑑査員在ラザル場合ニハ各項目ニ亙リ鑑査事項ヲ舉グルヨリ寧ろ空間ニ輻射セラレタル符號ハ單符一個ニ至ル迄細大洩サズ

記録セシメ終了後之ヲ檢討シテ狀況ヲ判斷スルヲ可トス、

(ハ) 近時一般ニ下級幹部ノ研究心旺盛ナラズ部下教育ニ對スル熱意亦極メテ乏シキモノ多シ、之故ニ憂フベキ傾向ニシテ速ニ打破刷新ノ要アリト認ム、

先般三保基地ニ於テ通信講習ヲ實施セル際ニ於テモ右狀況ハ如實ニ現ハレ直接下士官兵ノ通信教育ヲ擔任スベキ分隊士級ニシテ講習ニ參加セルモノ極メテ少ク、互ニ譲り合ヒテ出席ヲ回避スルノミナラズ偶々出席セルモノモ多ク居眠リニ時ヲ費シテ熱心ニ聽講セズ教官ヲシテ啞然タラシメタリ、



七其ノ他

下士官兵搭乗員ノ素質技術低下シ通信不如意トナレル現狀ニ於テハ  
 猛訓練ニ依リ之ヲ補フノ外ニ道無キニ拘ラズ幹部不勉強ニシテ技術  
 低下ニ拍車ヲ掛クル如キニ於テハ又挽回ノ望無キニ立到ル虞大ナリ  
 猛省ヲ要スルモノト認ム

(4) 雜音對策ヲ徹底的ニ行フ要アリ  
 發動機其ノ他ヨリ發生スル雜音ノ受信ニ及ボス障礙ハ甚ダシキ場合  
 ハ受信ヲ殆ド不能ナラシムルモ一般ニ飛行其ノモノニ於ル安全性ニ  
 ハ影響ナキヲ以テ之ガ對策ハ充分行ハレズ、從テ重要信ヲ受信浪シ  
 タル例極メテ多シ、而モ本陣時ハ適當ナル處置ヲ施スコトニ依リ大  
 部分ハ除去可能ナルヲ以テ飛行及警戒幹部ハ特ニ此ノ點留意シ雜音  
 ノ爲ニ受信不能トナルガ如キコト決シテナキ様平常ヨリ整備ニ萬全  
 ラ期ス要アリ、之ガ具體的方策ノ詳細ニ關シテハ當隊ヨリ展資料ヲ  
 刊行シテアリ、

(5) 電池ノ整備一般ニ不良ナリ  
 機上ノ整備電池ノ整備一般ニ不良ナリ、概ネ一積ミ放シ一使ヒ放シ  
 ノ儘ニ以テ甚ダシキハ一〇V以下トナルモ搭載替ヲセズ直結ニヨリ  
 既ニ

充電スルヲ以テ差支ナシトシツツアル部隊アルモ斯クテハ電池ノ命  
 數ヲ短縮スルノミナラズ容量ヲ減少シ電探其ノ他ノ電線裝置ト併用  
 スル時電力不足トナル虞アリ、  
 電池ノ整備ハ規定通り行ヒ電壓降下セバ必ズ地上ニ卸シテ充電ヲ勵  
 行スル要アリ、

一、作戰準備ニ關スル事項

(1) 3AF 兵力ノ九州進出ニ當リ或ル基地ニハ 5AF ノ夫レト合シテ整備主任數名在駐スルノ結果トナリタル反面或基地ニハ一名モナク特務士官タル中尉二名ニ其ノ整備指導ヲ一任セル如キ所モアリ斯ノ如キハ事前ノ研究打合せノ不充分ナルニ起因セルモノニシテ點檢整備並燃料彈藥ノ補給及應急作業等ニ主体ヲ置ク前進基地群ニ於テハ極力整備幹部ヲ均等ニ配置スル如ク考慮シ一基地ニ少クトモ基地狀況ニ精通セル整備主任一名ト展開機種ニ對シ適當ナル員數及關係機種ノ分隊長ヲ配シ不足勝ナル整備員ノ全幅活用ヲ計ラザル可カラズ

ニ、基地設備

- (1) 防空築城ノ見地ヨリシテ航空基地ノ選定上必要ナル條件左ノ如シ
- (2) 被害極限上飛行場ハ廣大ニシテ特ニ掩体地域廣ク徹底セル分散隱匿可能ナルコト
- (3) 地下施設容易ナル地形ヲ附近ニ有スルコト
- (4) 彈痕補修容易ナルコト
- (5) 地質適當ニシテ水位高ク且附近ニ碎石ヲ得易キコト

(4) 敵機ノ電波暗視裝置利用ニ依ル攻撃困難ナル如キ地形ナルコト

即チ飛行場ノ先端ガ海ニ接シ居ル如キハ不良ナリ幾分離レタルヲ可トス又著明ナル灣等ヲ控ヘ居ルモノモ良好ナラズ

(5) 防空戰團機ノ使用ニ適當ナル飛行場群ヲ有スルコト

(6) 所要各種資材ノ補給ニ便ナルコト

B I 29 ノ面爆ニ對シテハ右ノ六項自ハ強クナル航空戦力ノ持續上絕對必要ナリ

「戰例」

(一) 一般ニ飛行場廣大ナルトキハ被彈密度粗トナルコト多ク最少限所要離着陸地帯ノ修復容易ナリ即チ鹿屋ハ數回ノ大面爆ニ耐ヘ終始使用可能ナルニ他飛行場ハ一度ノ面爆ニ一日乃至二日ハ使用不能ニ陥ルモノ多シ

(二) 宮崎飛行場ハ地盤硬ク水位低ク且掩体ハ完備セルモ掩体密度大ナル爲補修ノ困難ト掩体地區ノ被彈ニヨリ使用不能トナレルト多シ

(3) 現戰局ニ於テ關東方面ヨリ九州ニ至ル空輸路ハ極メテ重要ニシテ從ツテ相當ノ輻輳ヲ來シツ、アル處敵機來襲ノ激化、燃料ノ逼迫及一

般交通機關ノ梗塞化等ヲ伴ヒ之等空輸要務ヲ一元のニ且能率のニ管制スルコトハ愈其ノ必要性ヲ増大セリ之ガ爲左ノ諸項ハ速ニ改善ノ要アルモノト認ム

(一) 近時空輸機ニシテ本土上空ニ於テ敵ニ擊墜セラレ、モノ少ナカラズ、空輸機及各主要基地間ノ通信連絡法、基地ニ於ケル空襲状況氣象等ノ適切ナル通報要務等ハ更ニ檢討改善ノ要アリト認ム

(二) 輸送機々長ノ若年ナル爲種々ノ點ニ於テ不利ヲ齎シツ、アル事ハ万人ノ熟知スル處ナリ、之等塔乘員ノ技能、職務ノ教育ヲ更ニ強化スルト共ニ必要ニ應ジ便乗者中ノ最先任塔乘員ガ機長ノ職ヲ執ル等ノ方策ニ關シ研究ノ要アリ

(三) 空輸挺身部隊ノ派遣隊ト所謂空輸協力部トガ併置セラレアル基地(例鹿屋)ニ於テハ空輸要務ノ統制二元的トナリ第三者トシテハ連絡先ノ判定ニ苦シムノミナラス派遣隊ト空輸協力部トノ連絡緊密ナラザル時ハ相當無駄不經濟ヲ招來スル事例多シ、斯ル基地ニ於テハ派遣隊ニ一切ノ空輸關係要務ヲ擔任セシムルヲ可ト認ム

(四) 被害局限上ノ諸戰訓左ノ如シ  
(一) 笠原ニ於テ六番徑度ノ爆彈ニテ三米ノ厚サアル土中式遊退所ヲ貫

通セリ

(二) 作戦ニ使用セル有線通信網ハ重要建築物ヲ迂回シテ敷設スルヲ要ス又可及的民間施設ニ頼ラザル要アリ(鹿屋ノ現状ハ郵便局及電信局ヲ經由シ居ルヲ以テ一彈ニヨリ大半不通トナレリ)

(三) 艦載機等ノ小型機ニ依ル攻撃ニ對シテハ現方式ノ艦体ハ相當ニ有効ナリ、但シ艦体ハ徹底的ニ偽裝ヲ行フト共ニ格納機ノ脱油ハ完全ニ實施スルヲ要ス

B 129 ノ面爆ニ對シテハ右方策ハ効果少ニシテ地下格納ヲ第一トシ然ラザル場合ハ極力廣範圍ニ分散偽裝スル外手段ナシ、森林等モ飛行場ニ近キモノハ物資隠匿物トシテ利用價値少シ

(四) 時限爆彈ハ危害半徑ハ比較的小ナルモ多數ヲ使用セル場合基地制壓効果大ナリ

(五) 時限爆彈ノ破口ハ土質ニ依リ相當ノ差異アル如シ、鹿屋ニ於テハ鋪裝面ニ於テ直徑十米芝生、畑地等ニ於テハ直徑三米内外ニシテ五米以上離隔セバ被害ナク直上ニ土ヲ吹上グルノミナリ  
松山ニ於テハ土質粗ナル爲カ普通爆彈ノ夫レト大差ナキ程度ノ彈痕ヲ穿テリ

(六) 現在時限爆彈處分法ニシテ危險少ク且ツ短時間ニ實施シ得ルモノナキ爲る處ニ於テハ滑走路及誘導路ハ危險ニ關ラズ直チニ未發火ト既發火ヲ論ゼス壓壞シ使用シツ、アリ滑走路以外ハ危險標示赤旗ヲ掲ゲ時限發火ヲ待テ四十八時間経過セバ不發彈トシテ處分シツ、アリ

(七) 國境附近建築物等ハ比較的簡單ナルモノモ極メテ有効ナリ、更ニ國ニ對シ來襲スル敵機ヲ攻撃シ得ル如ク對空砲銃火ヲ關聯配置スルヲ有効トス、但シ國境ハ時々其ノ位置ヲ變スル等ノ着意必要ナリ

(八) 列線掩体附近ニ整備員用待避壕ヲ又指揮所附近ニ待機搭乗員用防空壕ヲ完備スルコトハ被雷局限上ヨリスルモ又戰力發揮上ヨリスルモ絕對必要ナリ

三、基地要務關係

(一) 敵ノ空襲旺ニシテ溝穴式防空壕或ハ溝穴式格納庫ヲ完備セザル作戰基地ニ於テハ整備員ノ待避ハ整備ノ大部分ヲ左右スル重大事項ニシテ指揮統率ナキ場合ハ兵員ハ益ク烏合ノ衆トナリ一度分散待避センカ終日持場ニ復歸セザル例多シ

(二) 故ニ整備幹部ハ充分ナル計畫ノ下ニ予行訓練ヲ實施シ少ク共分隊士引率ノ下ニ統制的敏速ニ待避スルト共ニ可及的速ニ復歸シ整備作業ニ全力ヲ傾注シ得ル如ク指導訓練ノ要アリ又常ニ基地員全体ニ對シ防空情報ヲ徹底シ空襲警戒等警報ヲ明確ニシ安シテ作業ニ專念シ得ル如クスルコト必要ナリ、之ガ爲飛行場待機自動車活用ニツキ研究ノ要アリ

(三) 簡單ナル地下待避壕ハ現在ノ如ク敵方面爆撃ヲ實施スルニ於テハ全然用テナザル故ニ居住ニ關シテハ飛行場ヨリ可及的離レ整備ニ便利ナル地域ニ偽裝ヲ完備セル分散居住區(溝穴ニシテ防彈完備セル箇所ニシテ整備地區ニ近接シアレバ理想的)ヲ設定シ飛行場ニ於テハ哨臺ヲ多敷作製シオクヲ可トス但シ所謂哨臺ハ壕内ニ於テ上空ヲ直視シ得又一人孤立スルヲ以テ兵員ノ訓練不充分ナルトキハ恐怖心ニヨリ之ヨリ逃ゲ出サントシ或ハ之ニ入ルヲ好マザルモノナルヲ以テ之ニ對スル處置ヲ考慮スルヲ要ス

(四) 燃彈ヲ搭載及落シ方ハ前線基地ニ於ケル最大作業ノ一ニシテ之ガ能不能ハ適切ナル攻撃及被害局限ニ重大ナル影響ヲ有ス

南九州ニ於ケル現在ノ諸施設ヲ以テシテハ作戰ノ要求ニ基ク準備時

間一被爆ヨリ攻撃發進迄ノ一内ニ燃彈ノ卸方及搭載ヲ實施スルコトハ言フベクシテ行ハレ難シ故ニ事前ニ於テ凡ユル工作力、兵力、廠材活用等ヲ以テ之ガ設備ヲ完備シ燃料ノ卸方、手積法、分散小出庫燃彈ノ存置箇所等ヲ研究準備シ置クヲ要ス

「戰例一」

(一) 國分基地ニ於テ燃料卸方發令後能力不足シ過半数機未實施ナリシ爲却ツテ次期攻撃ニ辛フジテ間ニ合ヒシコトアリ  
(二) 菊水七號作戦ニ於テ晝間特攻ノ主力タル白菊ハ命令變更ニヨル準備作業ニ追隨シ得ズ、七〇機中二機ノミ發進セリ

(二) 飛行場設置ノ要アリ

敵ノ爆撃極メテ頻繁ナル前線基地ニアリテハ彈片ニヨル車輪ノ「バシク」及不良地滑走ニ依ル脚折損等ノ事故極メテ多シ、例ハバ鹿屋基地(夜戦)ニ於テ一五ヶ月間ニ此ノ種事故九十八件ノ多キニ及ベリ之ガ對策トシテ飛行場隊(燃料補給(卸方)統制實施、救難應急作業、到着飛行機ノ誘導格納及分散秘匿ノ統制實施、飛行場ノ補修維持等)ヲ設ケ直チニ之等飛行機ノ搬出並ニ車輪交換ノ援助等實施セシムルヲ要トスベシ

飛行場隊ハ車輪ヲ專有シ適當ナル補用品ヲ搭載シ飛行機搬出ニ要スル人員及機材ヲ有スルヲ要ス、更ニ彈片ノ拾索ニ努ムルト共ニ總員ニ對シ之ガ除去ニ努メシムルヲ要ス(鹿屋基地ニテ實施中)

(四) 急速飛行場修理用トシテ一基地ニ對シ常時左記ノ穴埋メ材料ヲ準備スルヲ要ス

(1) 碎石 一〇〇〇立方米

(2) 砂 利 二〇〇〇立方米

(3) 「バラス」 二〇〇〇立方米

之等ハ「トラツク」一連行ニ便ナル位置ニ分散シ急場ニ間ニ合フ如クナシ置クヲ要ス猶「トラツク」ニ搭載スル場合ニ便ナル爲「トラツク」積込位置ヲ「堀下」式一(地面ヨリ「トラツク」ノ高さ丈堀下ゲ置ク法)トナシ有効ニ使用シアル基地アリ猶作業兵力トシテハ鹿屋ノ例ヲトレバ「トラツク」一二五〇台人員一五〇〇名ヲ準備シアリ車輛ノ整備ハ各基地共極メテ不良ナリ之ガ原因ハ車輛ヲ漫然トシテ全數使用シ之ガ整備ニ要スル人員時間及補用品等僅少ナルニ起因スルモ特ニ居住區飛行場遠隔トナル時ハ濫用ニ陥リ易ク幹部ニ於テ充分考慮統制整備スルニ非ザレバ全幅活用ハ望ミ難シ

(1) 今次作戦ニ於ケル可動數ハ概ネ保有率ノ五〇〜六〇%程度ナリ  
 (2) 通信連絡ハ空襲ニ依リ極度ニ不如意トナルヲ以テ廢線ヲ利用シ各分  
 散地區ニ直通電話ヲ設置シ或ハ手旗信號、發火信號等ニ依ル通信法  
 ヲ定メ訓練實施ヲ要ス

(3) 防空關係情報ハ基地全般ニ迅速確實ニ徹底スル如ク凡ユル手段ヲ講  
 ブル要アリ、警報發令ノ狀況不分明ナルトキハ整備員ハ安ンジテ整  
 備作業ニ専念スル能ハズ甚シキハ一名ノ兵ガ去レバ總員之ニ從ヒテ  
 退避スルニ至ル、故ニ飛行場所在ノ整備員等ニ對シテモ「サイレン」  
 號音、發煙、旗旗等凡ユル方法ヲ講ジテ狀況ヲ明ナラシムル如ク精  
 確スル要アリ

調整關係

(4) 今次沖繩作戦ニ參加セル 3AF 5AF 飛行機實動狀況ハ概ネ左記ノ如シ

機種	有効/保有%	實動/有効%	要修理ニシテ一層保 同上ヲ要スルヲ有%	記
零戰	七〇〜七四%	三五〜五七%	二七〜三〇%	(註) 有効機ト ハ要修理 ニ一層間 以上ヲ要 スルモノ ヲ除キタ ル機數ナ リ
紫電	八三%	五二%	一七%	
零晨	八八%	八六%	一二%	
天山	五八%	八〇%	四二%	
彩雲	六四%	六一%	三六%	
銀河	八一%	八二%	一九%	
一式陸攻	七一〜八四%	六二〜六七%	一六〜二九%	
夜戰		六三%		
水偵	九一%	九二%	九%	

(4) 現在整備關係下士官ノ技術ハ一般ニ甚ク低下シ又作戦ニ追ッ  
 レ勉強ノ余地少ナシ、之等ノ者ヲ統率シ整備ノ完璧ヲ期スル爲ニハ  
 整備主任以下幹部ノ指導指導ニ依ツ處極メテ大ナル處近時分隊長、  
 分隊長亦若年化シ其ノ經驗僅少ナルヲ以テ特ニ此ノ點ニ留意シ十二  
 分ノ努力ヲ爲サレバ整備術科指導力ノ低下ヲ招來スルコト明ナリ